

## 教育推進室会議（第2回）（科目ナンバリング説明会）要旨

日 時：平成24年9月21日（金） 13:00～14:00

場 所：総合教育棟1階 共用会議室

出席者：中根室長（教育担当理事）， 森（人文学部）， 郡（教育学部）， 加藤（医学研究科），  
伊東（理工学研究科）， 石黒（農学生命科学部）， 手塚（学務部長）の各室員，  
木村（21世紀教育センター）オブザーバー

欠席者：田中（21世紀教育センター高等教育研究開発室）室員

事務局：栗野教務課長， 五十嵐教務課補佐

（その他の出席者）：教育推進機構会議委員および各学部等事務職員 等

### ※計約40人が参加

- 中根室長から、科目ナンバリング説明会の開催にあたり挨拶の後、国際基督教大学教務部教務グループの永谷主査から当大学における制度の概要等について説明があり、その後、次のような質疑応答があった。

Q：科目の難易度について中級から上級への変更ができるようだが、その背景は？

A：教員による当初設定が違っていた場合など訂正する。

Q：学生から変更の要求があった場合は？

A：学生からの要求というよりも、教員間の話し合いや、他教員の科目との比較を通じて気づき変更を申し出ているケースが多い。

Q：ナンバリングで使用するアルファベットの略号はICUのみで通用するのか？

A：ICUで作ったものだが、海外の大学のナンバリングを参考にしているので、一般化は可能だと思う。他大学との連携を意識的にとっているわけではない。

Q：海外の大学との単位互換の際に、ナンバーにより難易度などの科目の類似性が分かるなど共通性はあるのか？

A：単位互換の際は、ナンバリングは参考にする程度であり自動的に互換できるわけではない。シラバスにより授業内容等を確認して単位互換を行っている。海外からの留学生は留学前に科目の難易度を知る参考にしているようだが、実際に帰国してから自大学の単位として認められるかは分からない。

Q：海外の大学とのナンバリングの共通化や、日本の大学間での共通化は進んでいると思うか？

A：個人的にはあまり進んでいないと思う。最終的に他の大学と連携することが決まってから共通化が図られるのではないかと思う。

Q：複数のメジャーがある中で、科目の中級・上級のレベルを合わせるのはどのように行っているのか？

A：意識的に合わせてはいない。それぞれのメジャーでの決定を他のメジャーが尊重している。

Q：科目を自由に履修できるようだが、個々の学生の4年間の履修計画に対するアドバイスはどのように行っているのか？

A：専任教員がアドバイザーとなっている。また「アカデミック・プランニング」という専門の部署を設けて学生への履修アドバイスをを行っている。

Q：3学期制ということだが、その運用はどのようなものか？

A：履修登録、成績登録が「通年制」に比較して3倍になるので、事務方にとっては負担がある。学生にとっては科目選択の機会が多くなり軌道修正がしやすいので便利だと思う。1学期が6月に終了し、2学期が9月からなので留学がしやすいというメリットもあると思う。

Q：ナンバリングを導入した場合、カリキュラム変更時に読替表を作成しなくても混乱はないのか？

A：ICUでも読替表は作成しており基本的には必要だと思う。またナンバリングによりカリキュラムに変更があったことが分かりやすいという利点があると思う。

Q：ナンバーの最後の1桁の数字が9以上になる場合は、どのような設定となるのか？

A：ルールは特に決まっていないが、欠番がある場合はその番号を使用することが考えられる。ただしその場合は、欠番となる前にその科目を履修していた学生が混乱する可能性があるため、廃止となつてから何年かの間隔をおいて使用するなどの対応が必要だと思ふ。

Q：ICUでは学生の自学自習を促進するサポートは何かしているのか？

A：全学的に何かやっていることは特にない。

Q：上級科目をあまり取らなくても卒業できるようだが？

A：実際、中級科目だけでも卒業できなくはないが、修得科目に偏りのある学生には教員が指導を行っている。

Q：履修登録の際は、ナンバリングの番号を使用するのか？

A：履修登録画面では履修できる科目の一覧が出るので、番号だけで登録するというわけではない。

Q：履修登録システムのメーカーは？

A：ICUの学内オリジナルである。

Q：3学期制とはどのようなものか？

A：1コマが70分授業となつており10コマで1単位となる。1学期は4～6月、2学期は9～11月、3学期は12月～3月初旬となつている。